ひのきばやどりぎノ種子散布ノ奇象

Þ

脈並ニ支脈上ニ可ナリ毛ガアル然シ其毛ガ同屬中ノたにうつぎ即す Diervilla japonica DC. てねらつぎノ花ョリハ瘦セ長クテ下方三漸 ル又はこねうつぎノ葉ニハ通常毛ガ極メテ少ナク殆ンド無イ様ニ見ユルガにしきうつぎノ葉ニハ葉裏ノ中 ニ狹窄シテ居ルガはこねうつぎノ花 ハ豐大デ其下部ガ急ニ狹窄 ノ様ニ軟クテ白ク

世間デ云フはてねらつぎハ前述ノ通リ箱根山

カラ矢張同

様ニ變色シテ箱根

山ニ多キにしきらつぎヲ世人ガ輕卒ニモ同種ノモノト思ヒテ扨コソ今日謂フトコ

ニハ産シナイガ然シ上ニモ言ッタ通り其花色ガ白

3

リ紫ニ

變ズル

四 年 六 私ハ書物ノ記事ニ拘泥セズニ質地ニ就テ探究シタカラ上ノ如キ新事實ヲ得タノデア うつぎい「相州箱根山ニ多シ」ナド、書イテハ惡ルイ、コレハ丁度きりしまつくじガ霧島山ニ産セズ又うんぜん 上ニ詳述シタ通り今日吾人ノ稱スルはこねらつぎハ決シテ箱根山ニ産セヌカラ「言海」ナドノ記事 つくじガ温泉岳ニ産セヌト同ジコトデアル ノデアルカラ悉ク書物ヲ信ジタナラバ忽チ澤山ノ誤謬ヲ收穫スル ノはてねうつぎヲソ ノ様ナ名 デ呼じ做シタモノデアロウト思フ

)ひのきばやどりぎノ種子散布ノ奇象

放出スル

ノ狀

ハ頗ル一顧

ニ値スベキコト先ニ偶々東京帝室博物館天産部在勤ノ根本莞爾君

3

y

テ見出セラレ

Z

ク其中央ニー小種子ヲ藏スルコト恰モ普通ノやどりぎノ果實ニ於ケルガ如ク然リ、而 如ク或ハ疎ニ或ハ密ニ點々トシテ其莖節ニ著キ熟シテ黄色若クハ柑黄色ヲ呈シ所謂漿果ヲナシ のさばやどりを(Pseudixus japonicum Hax. 一名 Viscum japonicum Thunb.)ノ果質 ハ其小ナルコト シテ本種 ノ果實 テ果内ニ汁多 フ種子ヲ 恰 1モ粟粒

牧

野

富

太

鄎

ル書物ニ

۱۰

随分誤リノアル

ノ様ニはこね

今日

植物學上ノ術語ト

シテ果實ノ種類

= 蒴*

ダノ

根本君

3

リ

寄生

セ

n

3

リ上方ニ

位

ルはまびは(くすのき科ノ常緑樹)ノ

枝ヲ得

タル

ガ

之ヲ

檢 ŀ

ス

jν

= 其枝 ス故

我

植物體

3

リ上

方

位

七

枝岩

1

ヺ 2

有

ニ向フテ種子ヲ投

著

セ

w =

ヲ見

w

=

常

ナリ予

數多 上

1

種子

膠著シ又其やどりぎ體上ニ ひのきばやどりぎノ體 ひのきばやどりぎノ寄生セ

ハ

力ヲ要ス ナク遺存

jν

ナ 3/ B

若 w

シ精細ニ之ヲ研究

セ

۳۷

セ

ヲ見 論

=

ŀ

アリ而シテ此

如 旣二

7

一難カラ

ズ p w はまびは葉ノ裏面ニひ のきばやとりぎノ種子粘著 狀(實大

y

チ

其

果

中

如

何

--

in

方法

生ジ

以

種



破 雖

ラ 1.

果 七機 外 即

外

=

射出

雅

去

シ以

テ

ノ其附近

物體

其有 頂巓

ス

3

IJ

ヲ

ク

熟

ス 出

が則

チ其種子ハ突然果質

1 × ラ

IV

p

委

曲

今遽

カ 相

明

ラ

難 其

シ

ŀ 7

ヲ離ル Ŀ 方ニ 粘 質 向 ν フ ハヤ / テ若干 則 テ自 チ 直 體 ニカナク 距離 謬著 ヲ急遽彈 落 ス 此 下 ル寄主 ス 飛 w 如 ア 其 w ラ 種 力 子果體 ズ

則チ其間必ズー新事實ヲ發見 ,此柔輭ナル果實ガ其種子ヲシテ彈 其砲彈否其種子ヲ發射シ了セル空砲否空虚 セル葉ノ裏面(寫眞圖ヲ見ョ スル)ニ向フテ其下方 = 至 射 ラ 也 シ 2 4 J ŀ w ŀ 固 = ナ y 3 3 相 リ發 y タ ル果實 當 之ヲ豫言 ラ 射 拋擲 3 B 力 原

蓇葖及ビ葶ノ語ハ原ト何ノ 書ヨリ出デシカ

野 富 太

牧

唇葵ダノ又花莖ノ一種ニ葶ダノト種々六ケ敷文字ガ使用サレ 郎

甚英及ピ夢ノ語ハ原ト何ノ書ヨリ出デシカ